



速報新聞

キマグレ

発行所
彦根東高等学校

新聞部
彦根市金亀町4番7号



最先端の研究を知る



12月26日に名古屋大学訪問研修が行われ、1、2年生の希望者42名が参加した。本校を卒業され、現在名古屋大学で教鞭をとっておられる2名の先生に講演をしていただいたほか、キャンパスツアーや研究室見学等を行い、生徒たちは有意義な時間を過ごした。

名古屋大学に到着すると初めに、名古屋大学農学部講師の井上直子先生による生殖科学講座が行われた。先生は脳が生殖をコントロールする仕組みを研究されており、世界中で問題となっているウシの受胎率の低下を例に挙げて研究の内容を説明された。井上先生は「科学の力で家畜の生

産性を上げるために動物の生殖制御期間システムの解明が必要だ」と話された。その後生徒たちは学生実験実習室や図書館の見学を行い、学内食堂での昼食を取った。また希望者にはキャンパスツアーが行われ、生徒たちは大学構内の建物を見学した。

午後には名古屋大学農学部教授の土川寛先生による生物材料科学講座が行われた。土川先生は可視光と赤外光の中間に存在する近赤外光を用いた近赤外分光法を活用した研究をされている。この分光法を使うことで物質を破壊せずに計測を行うことができるので、みかんの糖度を調べるなど農産物の品質評価に役立っているそうだ。先生は「この研究が農学部の中では毛色が異なっているように、研究は幅広い。みんなには色々なことに興味を持ってほしい」とメッセージを送られた。

その後生徒たちは生物システム工学や資源昆虫学、植物遺伝育種学、生理活性物質学の計4つの研究室を訪問した。研修に参加した生徒は「講義や見学を通して何が学べるのか詳しく知れた。大規模な実験器具を見て研究にも興味が湧いた」と感想を話した。

名古屋大学訪問研修行われる

井上先生は「動物の生殖研究がどのように畜産に貢献できるか?」と題して講演された。



▼研究室を見学する。



▲キャンパスツアーで説明を受ける。

見学の様子

▼農学部の外観



▲学生実験実習室で大学の雰囲気を感じる。